

佐世保高専 J A B E E 関連アンケートの結果報告

教育システム点検・改善委員会

佐世保高専技術者教育プログラム「複合型もの創り工学」について、以下の2点についてのアンケート調査を行いました。

- (Ⅰ) プログラム修了生を通じた評価
- (Ⅱ) 社会の要求に適合しているかの評価

(Ⅰ) 修了生を通じた評価の結果について

- ・アンケート1：修了生による自己評価
- ・アンケート2：企業・大学院による修了生評価

本プログラムの「学習・教育到達目標」の各項目について、修了生が実際にその能力を身につけているか（「学習・教育到達目標」を達成しているか）を修了生自身および企業の直属の上司、大学院の指導教員に評価していただきました。

(1) 「学習・教育到達目標」のほぼすべての項目に対して、肯定的な意見の割合が、否定的な意見の割合を上回っていました。この結果から、本プログラムの修了生は、「学習・教育到達目標」の各項目の能力を身につけて修了していると判断しました。すなわち、教育の実施、学習・教育到達目標の到達の評価がいずれも適切であると判断しました。これらは教員間および科目間の連携を密にする仕組みである「教員間連絡ネットワーク組織（図1）」が効果的に機能しており、授業および個別指導の改善につながっていると考えています。今後も、「教員間連絡ネットワーク組織」に基づく教育活動を行っていくことで、肯定的な意見の割合がさらに増えるように、教育の質を上げていきたいと考えています。（なお、英語によるコミュニケーション（C-3）および技術英語の文章作成（C-4-2）では、否定的な意見の割合が、肯定的な意見の割合を上回っておりました。これらについては（3）で述べます。）

(2) 前回アンケート（平成20年度実施）と比較して、今回のアンケートでは、ほぼすべての項目において、肯定的な意見の割合が増加していました。この結果から、本プログラムの教育活動を点検し、その点検結果に基づき教育活動を継続的に改善していく「教育点検・改善システム（図2）」が有効に機能していると判断しました。今後も、「教育点検・改善システム」に基づく活動を行っていくことで、さらに肯定的な意見が増加するように、教育活動の改善を行っていききたいと考えています。

(3) 英語によるコミュニケーション（C-3）および技術英語の文章作成（C-4-2）においては、否定的な意見の割合が、肯定的な割合を上回っていますが、前回アンケートに比べ否定的な回答が大きく減少しています。これは、以下のような取り組みをはじめとする本校の英

語教育の効果が、徐々に表れてきたためと考えています。

- ①「総合英語Ⅱ」：特別研究の内容について、5分程度の英語のプレゼン（英語のパワーポイント）の実施および英語での質疑応答（2問程度）
- ②「応用コミュニケーション」：外国人教員による特別研究の内容についての英語のプレゼン（英語のパワーポイント）指導。
- ③「特別研究」：英語教員による特別研究論文の英語によるアブストラクトの添削・指導

ただし、依然として否定的な意見の割合が多いため、まだまだ現状の英語教育では十分ではないと判断しました。そのため、今後は、英語科教員だけではなく、専門学科を含めた学校全体としての英語教育の実施を検討していきます。

（Ⅱ）社会の要求に適合しているかの評価

・アンケート3：企業・大学院による本校の教育プログラムに関するアンケート

本プログラムが設定している「学習・教育到達目標」の各項目について、企業および大学院から評価していただきました。その結果、「学習・教育到達目標」の全項目について、重要であるという評価をいただきました。これより、本プログラムの「学習・教育到達目標」は、企業・大学院等の社会の要求に十分適合していると判断しました。今後も、定期的なアンケート調査を行い、本プログラムが社会の要求に適合しているかを調査していきたいと考えています。

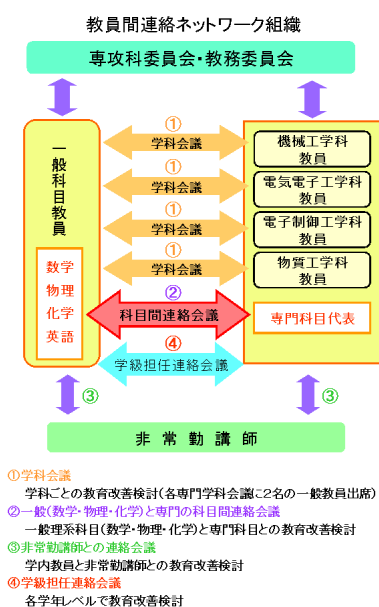


図1 教員間連絡ネットワーク組織

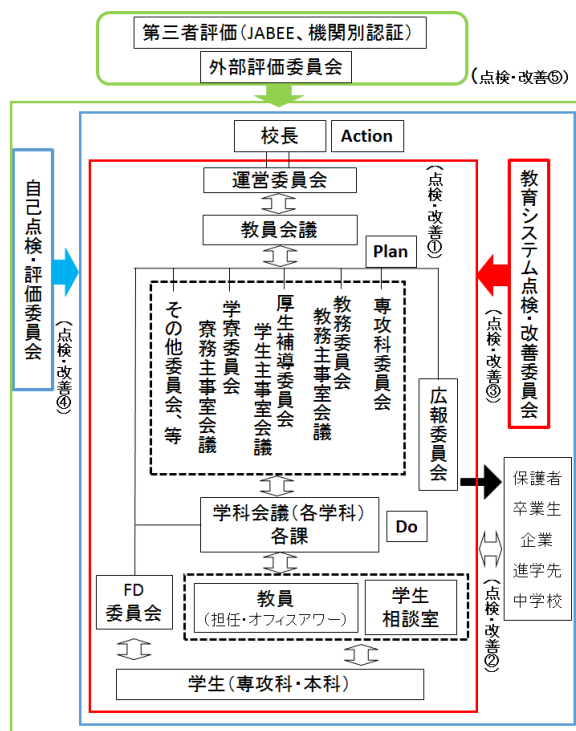


図2 教育点検・改善システムの構成